

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成27年4月21日に「全国学力・学習状況調査」が小学校6年生、中学校3年生で実施されました。多治見市の傾向は以下の通りです。

【小学校】

○平均正答率について

国語A問題を除くすべての問題で全国平均を上回っている。全ての問題で県の平均を上回っている。

○各教科の傾向について

国語

- ・ 説明文の中から適切なものを選択する設問、コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する設問など、選択式の設問の正答率が高い。
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題の定着に課題がみられる。

算数

- ・ 基本的な計算の力、器具を操作して計測する力は、概ね身に付いている。
- ・ 問題文から根拠をみつけたり、理由をはっきりさせたりして解答する力に弱さが見られる。
- ・ 割合の計算やおよその数など、数量関係の理解が浅い傾向がある。知識として理解はしているものの、それを具体的な場面で活用して解答を導き出す力に弱さがある。(活用力の弱さ)
- ・ 条件を用いて説明したり、解答の理由を説明したりするなど、論理的に説明して解答する力に弱さがみられる。(筋道立て手説明する力の弱さ)

理科

- ・ 「自然事象についての知識・理解」は概ね身に付いている。
- ・ 知識理解を問う問題では、顕微鏡の名称を答える問題や操作方法を答える問題が低い。
- ・ 選択肢によって答える問題の正答率が高い。
- ・ さまざまな事象を関連付けたり、論理的に思考し・筋道を立てて答えたりする問題に弱さがみられる。

○質問紙の結果から

- ・ 児童の学習習慣・生活習慣に関する調査の結果はほぼ県の結果と同じである。
- ・ 「最後までやりきってうれしい経験のある児童」「自分には良いところがある」と答えている児童の割合が県・全国平均より高い。

【中学校】

○平均正答率について

正答率はすべての問題で全国・県平均を上回っている。

○各教科の傾向について

国語

- ・意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する設問、品詞として適切なものを選択する設問、漫画の内容を参考にして適切なものを古典の文章の中から選択する設問など、選択式の問題への正答率が高い。
- ・複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題の正答率は全国平均正答率と比較して大きく上回っている。

数学

- ・数学的な基礎的な技能が身に付いている生徒の割合が高い。基本的な計算は、ほとんどの生徒ができるようになっている。
- ・文章や表、グラフから、大切な要素を読み取って、立式したり、根拠をもって解答したりする力に弱さがみられる。
- ・条件を用いて説明したり、解答の理由を説明したりするなど、論理的に説明して解答する力に弱さがみられる。

理科

- ・自然事象についての基本的な知識・理解力は概ね身に付いている。
- ・実験結果をもとに考察したり、考察内容を改善したりする論理的な思考に弱さがみられる。
- ・「消化」に関する問題の正答率が高い。
- ・「音」に関する問題の正答率に低さがみられる。

○質問紙の結果から

「学校に行くのは楽しいと思う」

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」

「自分にはよいところがある」

「将来の夢や目標がある」

「最後までやりきってうれしかった経験がある」

と答えている生徒の割合が全国平均より高い。

家庭での学習習慣、生活習慣や学校で学習に向かう姿勢がよいと学力調査の正答率も高い傾向が見られます。

学校・家庭・地域が連携しながら、児童生徒の学習習慣・生活習慣を高める取組を進めていくことが大切です。

多治見市では「習慣向上プロジェクトたじみプラン」により児童生徒の生活習慣・学習習慣の向上をめざしています。